



「ということ」

ちいろば会理事長 大澤 星一

3月になって、今年度もあと残り少しという頃になった。毎年この季節になると、いろいろなところで一年を振り返る、ということをする機会が多い。教会の暦でも受難節という、イエスが苦しみを受けたことを覚えながら過ごす季節と重なり、その苦しみが私たち人間の救いのためだったと、自分自身を見つめ直す機会にもなっている。

先日、あるところで、いつも大事なことを考えているにも関わらず指摘されたことがあって、自分の至らなさに気付かされた。教会の牧師や園長という立場であるゆえ、いろいろなところで話したり、書いたりする機会が多い。相手のことを思いながら、なるべく丁寧に、と心がけて筋道を考え、言葉を選び、話したり、書いたりしているのだが、それでもやっぱりうまく伝えられない時があって、悔しい思いを何度もしたことがある。自分が日頃課題としているテーマでそのようなことがあれば、その悔しさもその分大きくなる。そして思うのは、「そんなつもりじゃなかった」という言い訳めいた思い。

しかし、言葉や態度は話した側のものでなく、聴き手や受け手のものだ。言葉の印象は話した人が決めるのではなく、聴いた人、読んだ人が評価し。受け手にのみ自由に解釈する権利がある。たとえ、話し手が「そんなつもりじゃなかった」と思っても、受け手が話をそう聴いたり、態度をそう感じたのであれば、それがすべてだ。

よくニュースで政治家が差別発言や失言をして批判され、「そんなつもりではなかった」と答える場面を見るが、そう受け止められたのは事実であり、政治家はその事実をきちんと受け止めるべきだ。

そのようなことが起これば、まさか、この私が、日頃それを課題として受け止め、取り組んでいるこの私が、差別なんてするわけがないじゃないか、という驕りや自負を取り払って、自分自身の言葉や態度をもう一度見直さなければいけない。本当にあの言葉はふさわしかったのだろうか、したことは正しかったのだろうか、そんな風にいつも自己吟味を忘れてはいけないのと思う。そして何よりも、私たちの言葉がもつ力、相手の置かれている状況というものをよく考えて、言葉にこだわりをもって人と関わることを続けていかなければと思う。

人とのかかわりはとても難しい。でもそれは当たり前のことだ。皆、違う環境で育ち、それぞれいろいろな経験をしてきたのだから。その違いとの関わりを豊かさにとらえて、これからも人と関わっていききたい。

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

— ぼくも わたしも みんなが^{しゅやく}主役 —

このページは利用者りようしゃのみなさんからの発信はっしんの場です。
 今回は、当事者とうじしやの会「ちいろば園 みんなの会かい」のみなさんかいにインタビューをしました。



後列ごうれつひだり左から 平山さん、前平さん、松村さん、森川さん
 前列ぜんれつひだり左から 長尾さん、辰巳さん、吉岡さん

Q. がんばったこと、心こころにのこっていることなんは何ですか？

前平さん / 1番 見学の案内です。小学生の見学のとき、子どもたちについてきてもらえるように気をつけました。来てくれるのはうれしいです。2番 副会長の仕事をがんばったことです。副会長は、会長をたすけます。会長の辰巳さんがやめたら困るから、「辰巳さん にげません。投げ出しません。やめたらあかん」と話しました。

ぼくは、ことばがうまく出ません。だから、はじめはマイク持ちたくない、マイクなしでそのまま言いたかった。でも、みんなの会の他のメンバーをみて、「かっこいいから ぼくもやれる!」と思った。ぼくは成長しました。

平山さん / 大淀中学校の出張講演。他の事業所さん「ゆうとおん」の交流会、「パンジーメディア」の交流会、上映会等もあって、色々意見交換とか色んな人と話し合ったりとかできてよかったです。交流するとぐんぐん元気になる。また来てほしい。他には、ちいろば園の行事の企画を考える時間があった、とても良い時間でした。合同終礼では今まで職員さんが司会をやっていて、現在は利用者さんが司会やって、だいぶ変化しつつあります。利用者りようしゃのみんながきらきらと輝く主役になれるようにがんばっていこう。

森川さん / ゆうとおんの交流会に初めて参加させてもらって、楽しかったです。事務局の仕事をがんばりました。事務局は、資料をくばったり、ホワイトボードの準備をしたりします。みんなの会は、やるのがけっこうあって大変やったけど、やりがいがありました。合同終礼とかイベントの司会とか、緊張したけどいい機会でした。仲のいい友達から「司会ががんばってるなー」と言ってもらって、うれしかった。クリスマスのダンスパーティーのDJを2年間やらしてもらいました。やってよかったし、満足できました。みんなの会は、ぼくだけじゃなくて、みんな楽しめてると思います。他の司会のコーナーの手伝いしたり、ちゃんと協力できてると思います。

長尾さん / 合同終礼の司会です。気をつけたのは、聞いてくれる利用者りようしゃのみんなを思って、立つ位置、姿勢よく、ていねいにしゃべること。前は、しゃべるのが遅かったけど、大きな声を出せるようになったかな。自分でアレンジして話すこともできるようになりました。心に残ってるのは、ゆうとおんさんと交流会したこと。いろんなことしゃべれて、知って よかった。いい経験になった。「ブルーベリージュースおいしいね」って言うてもらってうれしかった。「コロナにまけるな！おまつりだ！」も成功したなあ。

よしおか 吉岡さん / ごうどうしゅうらい 合同終礼 キンコンカンコン※1 がんばった。 べんきょう※2 がんばった。ハイキング、まつり、旅行、アーメン※3 じゅんび がんばった。 かんぱい がんばった。

※1 ごうどうしゅうらい かいしじ かね あいず 合同終礼の開始時の鐘の合図

※2 まいしゅうか ようび ごうどうしゅうらい かいじょうい かい しょき よしおか べんきょうしゅうらい ほつひょうないよう けいじ じゅんび 毎週火曜日のみんなの会定例会のこと。書記の吉岡さんは、合同終礼の発表内容を掲示する準備をします。

※3 くりすますらいはい パーティーのこと

たつみ 辰巳さん / ぼくは かいちょう だから ちいろばえんのみなさんが しゅやくになれるように がんばってます。ぼくは ごうどうしゅうらい しかい、「コロナにまけるな！おまつりだ！」のしかい、クリスマス礼拝のしかいを がんばりました。ていねいに しっかり やりました。いえでセリフをかंगाえて、よむ練習をしました。

まつむら 松村さん / おおよどちゅうがっこう ごうえん に い 行ったこと。ひのでそう はなし おんせん うけつけぎょうむ はなし した。自分の話 ができる、しあわせな気持ち。また行きたい。みんなの会は、しゃべりやすいと思っている。でもまだ自分の意見は言にくい。もっと言いたい。ぼくは、マイクをもってみんなの前で発表するのがすきです。気をつけているのは、おおきな声で言うこと。まえよりもおおきな声で発表できるようになりました。マイクをもって話すのは、はずかしくはないです。

Q. しょくいん めんだん かん 職員的面談をして感じたことは？

ひらやま 平山さん / ちょっとだけ 難 しいなあって 思いました。しつもん こた 質問に答えてくれない人がいて 腹が立った。しょくいん のやめた方 辞め方 ほどい。辞めようと思ってるのが 伝わって こなかった。それは ちょっと ブー。信用 できない。利用者 のこと 真剣に 考 えてないと 思う。すごい 甘い と思う。

ながお 長尾さん / しょくいん 職員に やめてほしくない。たいちょうわる りゆう おも 体調悪いとか理由もあると思うけど、それは 早めに 言ってほしい。しょくいんめんだん なに い 職員面談で何も 言っては いなかった。

Q. やくいん みなさん、もうすぐ 2年の任期を迎えますね。やくいんこうたい おも 役員交代ですが、どうしたい 思っていますか？

たつみ 辰巳さん / みんなの会は、たのしいです。ぼくは、みなさんの意見をききます。みんなから「かっこいいです！」と 言ってほしいです。だから、これからも 3年、4年、つづきたいです。みなさんが、しゅやくになることを めざします。

よしおか 吉岡さん / がんばる。こうたい かみ か 交代 紙(※4)書こう。やる！

※4 みんなの会役員に立候補したい人が記入する用紙

まえひら 前平さん / たのしいです。ぼくは、みんなの会をこれからも 続けたいと思ってる。やめたら、そん！まだ 司会を やってない コーナー があるから、やってみようと思う。

季節にあった服装の支援

ちいろば園のこれまでの経験において、知的障害をもつ人たちに、気候に適した服装を選択してもらうことは容易ではありません。ご本人の明確なこだわりがある場合は別として、どの季節にどんな服をどれくらい着ればいいのか、利用者のみなさんに伝える時、目安となるものが無いままでは抽象的な指摘に留まってしまいます。そこで、下にある表を用いて伝えてみることにしました。気候に応じて、目安となる服の枚数は？、衣類の袖の長さは？、調節するのはどれか？をわかるように表しています。

掲示して一ヶ月ほど経ち、表を見て自身で確認している利用者の方もいます。支援者からは「〇〇さん何枚着てる？表見て確認してみよう。今の季節やったら〇枚がちょうどいいから〇枚脱ごう。」と、具体的な声かけに変化しています。

今回はこの表を掲示したのちの様子を、二人の新人職員の方に書いてもらいました。

ちいろば園主任 奥田



私は3名の利用者への支援に支援ツールを使用しました。三者三様で興味深い結果でした。まずはIさんの場合、ひとりで「もう一枚着た方がいいかなあ？どうしよう？」と呟いていたので声をかけてポスターを確認しました。ポスターを見てもまだ悩んでいる様子でしたが、最終的にはIさん自身で着ている服の枚数を認識し、適切か判断することができました。Yさんの場合、肌寒い日に薄い作業着だったので一緒にポスターを見て「シャツ(一枚目)は着てますか？」と指をさしながら順に確認しました。適切な枚数を着ていなかったので、「上着あるなら着ときましようか？」と言うと着用してくれました。Yさんが上着が必要と理解したのかははっきりとはわかりませんが、結果的には2名共『今の季節に合った服装』を着用することに繋がったので上手く活用出来たのかなと思います。次に、支援ツールは利用者と支援者を繋ぐコミュニケーションツールでもあるということです。薄着のことが多いTさんに「今日寒いですね。Tさんはどうですか？」と声をかけてポスターへ誘導しましたが、「暑がりやから。」や「高血圧やから暑いねん。」の一点張りでした。Tさんにはこのツールを使用した支援は効果的ではなかったように思いますが、支援を試みたことでTさんの性格を少し知れたので個人的には良い経験になったと思います。

ちいろば園職員 新地

Sさんは、ちいろば園が休みの日は、一人で電車に乗って県外に行ったり、奈良県内であれば、興味のあるイベントや買い物に自転車で行かれたりする、とてもアクティブな方です。

休みの日に外出する際、気候に合った快適な服であれば、気分も良く、よりいっそう充実した時間が過ごせると思っています。

「きせつに あった ふくそう」の表を活用し始めてまだ間もないですが、Sさん「表を参考にしながら服を選んでいきたい」と言ってくれています。

Sさんは、毎日天気予報を見ている方です。予想最高気温や予想最低気温を普段の会話に取り入れながら表を活用していこうと考えています。

快適な服装選びに関する経験値を楽しく積んでいって頂きたいです。

結果として、自己表現の一環としての服にもっと興味を持って頂ければ、喜ばしいことだと思います。

ちいろば園職員 玉野

～グループホームでの衣類や持ち物の支援について～

グループホーム 主任 米田 守

グループホームではこれまでに利用者の衣類の支援について気温に対して薄着であったり、前日と同じ服装を着ていたり、帰宅時に着て帰る上着がなかったなど、いろいろな行き届かない点がありました。

これからは・・・服装については抽象的な指摘ではなく季節に応じたスタンダードがわかる、「季節に合った服装がわかる支援ツール」(ちいろば園で作成された視覚的にみてもわかりやすいもの)を共有し使用させていただきます。外出時の持ち物についても同じように、多くの荷物や衣類を持ち帰り、グループホームで着る服や必要な物がなくなるないように、その時の状況に応じて視覚的にもわかる支援ツールを作成し支援していきます。

職員にとってもこれらのツールを使用することで曖昧な伝え方ではなくそれを一緒に確認し、職員間で統一した支援ができるようになると思います。

グループホーム職員にこれまでの支援での失敗談等を文筆していただきました。

グループホーム職員 大野 美子

グループホームのエンゼルハウスでは明日着て行く服を前日に用意するようにしています。はじめに自分で選択して頂き、その後、職員が気温や天候にあった服装を確認して利用者の方々に一緒に決めます。「明日は寒くなるようですね・・・?」「明日は暑い1日のようです・・・?」と声かけしています。

衣類の選択についても「今日はピンク色の服でしたね、明日はちがう色の服を着ませんか・・・?」などお伝えしていますがうまくいかないことも・・・。

気温の変化や衣類の整理についてもご本人でできると思いがちですが夏に裏起毛のズボンをはいて出る。冬、下着の上に同じ薄手のシャツを2枚重ねし、その上にジャンパーを着て行くもちいろば園に行きジャンパーを脱いだら薄い服装だけに。また寒い日になると思い重ね着しすぎる人もありました。

毎日の洗濯(食品を扱う作業をするため)についてもズボンだけ洗濯せずに次の日も同じものを着て出てしまったこともありました。その他衣類がうしろ前反対であった。歯磨き粉が衣類についてしまったままで出るなどもありました・・・。

グループホーム職員 川西 伸也

グループホームから病院へ通院される時の前夜ですが、「厚めの衣類で行きましょう・・・?」と声を掛けましたが、初めはその準備で用意していたのですが・・・当日に部屋から出てきたら薄着できました。朝は時間もなくチェックするようにしていますが、寒いときなどズボンの下にはくタイツなど確認を忘れるときがあります。時間をかけずにチェックするように頑張ってはいますが忘れるときもあり、見落としがないようにしていきたいと思っています。



だれ たよ こと
誰かに頼る事えんしよくいん ひで た ま き
ちいろば園職員 秀田 真希ねん がつ えん しよくいん はたら いただ ひで た ま き
2021年の10月から、ちいろば園で職員として働かせて頂くことになった、秀田真希です。

はじ めて、ちいろば園に来た日、右も左もわからない私を、皆さんが笑顔で迎えてくれたのを、今で

も、はっきりと覚えています。はじめ、利用者のみなさんの名前も、なかなか覚えられない私に

「秀田さん！おはよう！」と何人もの人が毎日声を掛けてくれました。新しい職場で、私の不安な

気持ちや緊張を利用者の皆さんの笑顔が和らげてくれました。分からない事だらけで、先輩の職員

の方にも、質問ばかりの毎日です。そんな分からない事だらけの私が、何度質問しても、嫌な顔を

せず、丁寧に親身に教えてくださる、先輩職員方。感謝の気持ちでいっぱいです。

わたし にん こども そだ じぶん
私は3人の子供を育てるシングルマザーです。 "なんでも自分でやらないといけない。" と思

いながら生活してきました。そして、なんでも自分でやれている気になっていました。だけど、初任

者研修の時に富田さんが言っていた「みんな、どんな人も誰かに頼って生きている。自分では出来

ない事を誰かがしてくれていて、私たちは、適切な依存先を知っていて、適切な依存をしているか

ら、生活ができているんだ。」という言葉に、「はっ！」としました。「私もそうだ。誰かに頼ら

ず、自分で出来ている気になっているだけで、私も多くの事を誰かに助けてもらい、依存して生き

ているんだ。」 あたりまえの事があたり前になりすぎていて、自立していると勘違いをしていると、

気づかされました。誰かに頼ったりするのは障害があるからとか関係なく、私たちみんなが、自

分に必要な適切なところに頼っているんだ。障害があるとか関係なく、みーんな、同じなんだな

と、改めて教えられました。

わたし は、まだまだ、まいにち べんきょう りようしゃ かた
私は、まだまだ、毎日が勉強で、利用者の方にとって、

とても頼りないと思います。これから先も、上手く伝わら

なくて、伝えられなくて、たくさん色々な上手くないかない

事も、あると思います。でも毎日を利用者の方達と、一緒に

過ごしながら、私自身も、一つずつ成長して、一つでも

多く利用者のみなさんに、笑顔になってもらえるように頑張

っていきたいと思っています。



ほうじんしょくいんけんしゅうほうこく
—法人職員研修報告—

2020年度と2021年度は、「在日朝鮮人差別に学ぶ」というテーマで法人職員の研修を行っています。
第1回目の昨年8月には、劇団「タルオルム」の主宰者である金民樹さんから話を伺い、今回1月に実施した2回目では、ドキュメンタリー映画「アイたちの学校」と「蒼のシンフォニー」をみんなで視聴しました。

ちいろば園職員 儀道 香織

自分たちではどうしてもできない苦しみを背負って生まれた在日朝鮮人の子供たち。私たちの暮らす日本が過去に犯した過去の犠牲を強いられ、戦争が何十年も前の昔のはなしになっていき、時が進んでいく中、いまだに苦しめられています。「私たちには人権がないのか?」「生きていることが認められないのか?」こんな言葉をこどもに言わせ、そんな日々を送らせていることが本当に恥ずかしく、悲しくなりました。

そんな私も研修で学ぶ前は、「日本で暮らしているのなら朝鮮学校にこだわらずに、日本の学校に入学したらいいのに。そしたら、穏便な生活が送れるのに。」と思っていたことが正直ありました。もちろんそこには悪気なんて全くありませんでした。学んだ今なら何て愚かな考えだったのかわかります。そして、悪気がなかった私は、悪意がある人よりもタチが悪い考えを持っていたと思えます。まさに、「日本の文化に染まり、日本人になればいい」と、私は考えていたこととなります。全くそんな気持ちではなかったけれど、今思うと根本には優生思想の考えがあるからこそその発想だったのでは・・・と考えています。そして、同じように障害者の方たちの文化・世界観を無意識のうちに無視していないか? 私の考えや行動が正しい!と利用者の方たちに接して、苦しめてはいないだろうか・・・。日本人や健康者の文化・世界観が正しいものではありません。それぞれの文化や世界観を認め、尊重しなければ分かり合えず、共に生きていくことはできないと思います。

研修を受け、私がまず取り組むことは、日々生活を共にする利用者の方たちの世界へ入らせてもらえるような信頼を得るに値する支援を行う努力だと思っています。

グループホーム職員 高田 拓

在日朝鮮人の差別について学ぶ機会があり、朝鮮学校一つでもその中には国籍や個々人の自分のルーツについて様々な違う想いがあり、それぞれに別々の考えや歴史がある事を知りました。何より当人達にもそれぞれ違う経緯や個人個人の悩みがある事などを知り「朝鮮戦争の時の難民?」程度の認識しか持っていなかった自分にとっては新しい発見になりました。何より世間の朝鮮学校や、在日朝鮮人に対する認識にある種の決めつけや固定観念の様なものがあり、それは障害者全般に対する世間の一方的な認識にも通じている物があるのではないかと考えるきっかけになりました。

在日朝鮮人や朝鮮学校への差別、障害者への差別、どちらも中身を見ずに決めつけられてしまい、差別に繋がっている部分があるのかもしれない。



☆^{ごうえんかいひ}後援会費・^{ねんかんこうどくりょう}ちいろばだより年間購読料 (2020年12月1日～2021年1月31日)

^{きょうりやく}ご協力ありがとうございます。

篠原範子、窪田義廣、清水浩、植村葉子、高見忍・十茂子、大澤星一、学校法人ひかりの子学園、
草苑幼稚園、秀田真希、岡田登志、馬見労務教会、権利擁護支援センターななつぼし

^{いじょう}以上 ^{けいしょう}敬称は略 ^{りやく}させていただきます



ブルーベリーのオーナー募集



2021年度のブルーベリーオーナーを募集しています。無農薬で栽培しているブルー
ベリーの木を自分で選び収穫し、思う存分『自然』と『ブルーベリー』を味わいたい方、
ぜひご連絡下さい。

募集口数は10口(10組)とさせていただきます。詳細については下記のお問い合わせ先
までご連絡下さい。

オーナー様にいただくこと

- ① 5月下旬～6月上旬、ちいろば園に来てブルーベリーの株(木)を選ぶ。
- ② 7月中旬～8月中旬頃、ブルーベリーの収穫。

★^{ばしよ}場所：ちいろば園 ★1口(1株)：3800円 ★^{もう}申し込み期間：5月中まで

○^{もう}お申し込みは電話にて、【お名前、ご住所、ご連絡先】をお知らせください。

(平日8:30～17:30)

※10組以上の応募があった場合は抽選のうえ決定させていただきます。

●^{とあ}お問い合わせ先：電話／0745-72-1923 ^{たんどう}担当 新宮まで

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年6回 頒価 50円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F